

経営比較分析表（令和4年度決算）

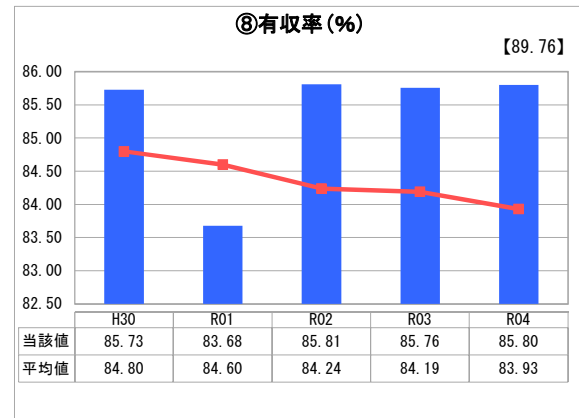
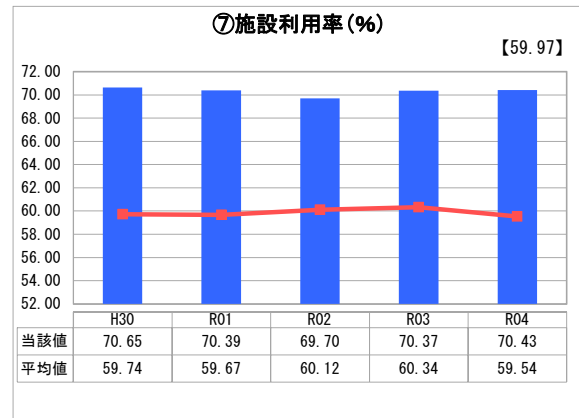
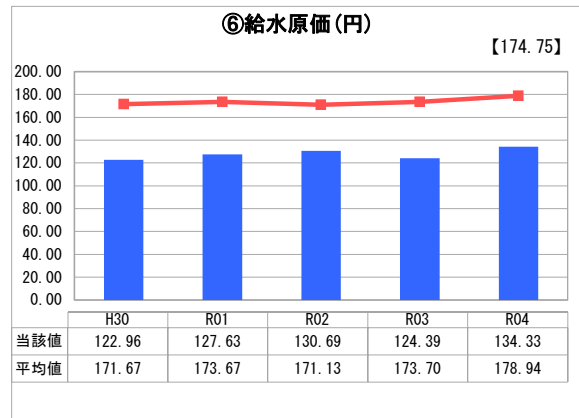
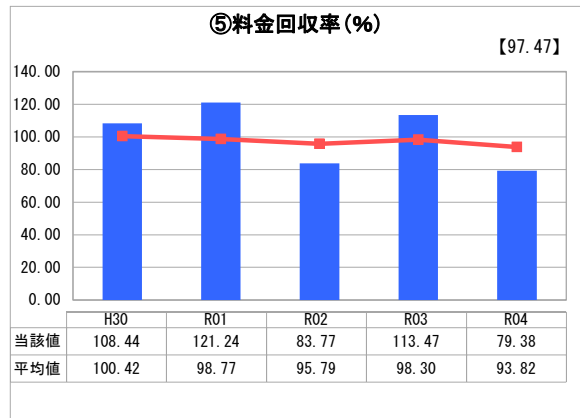
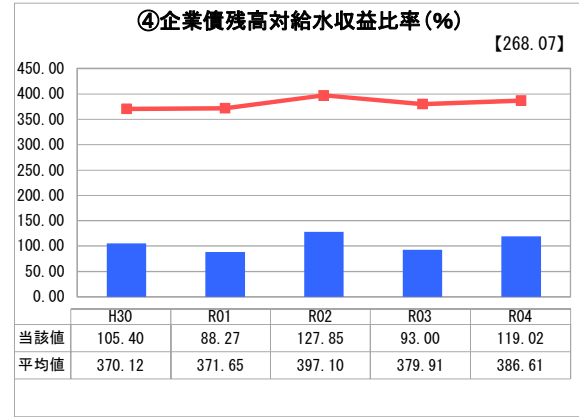
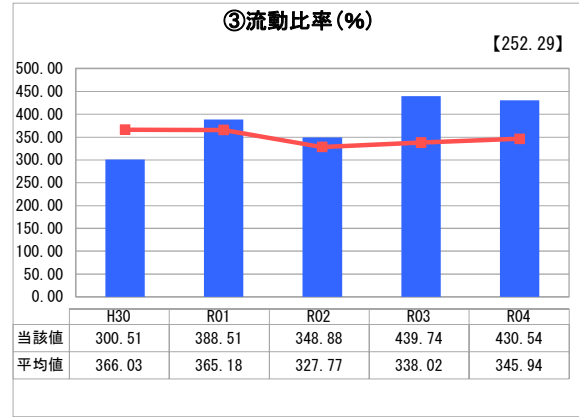
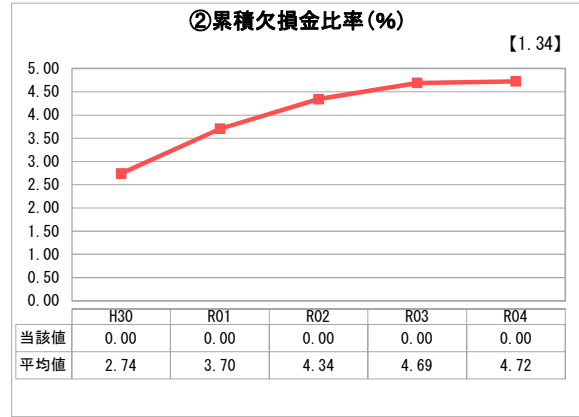
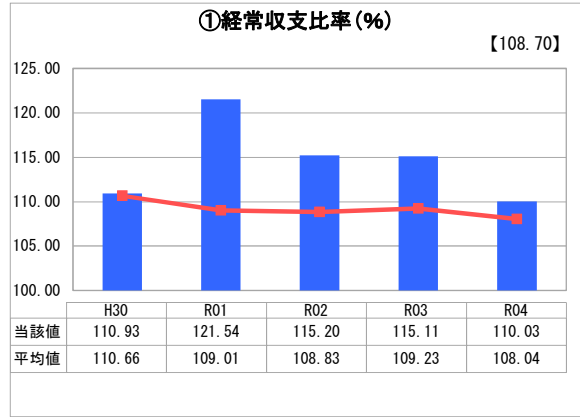
三重県 菟野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	89.04	99.61	2,607	

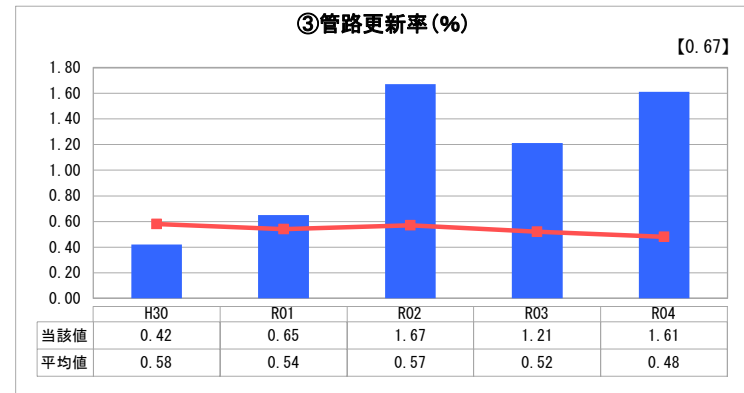
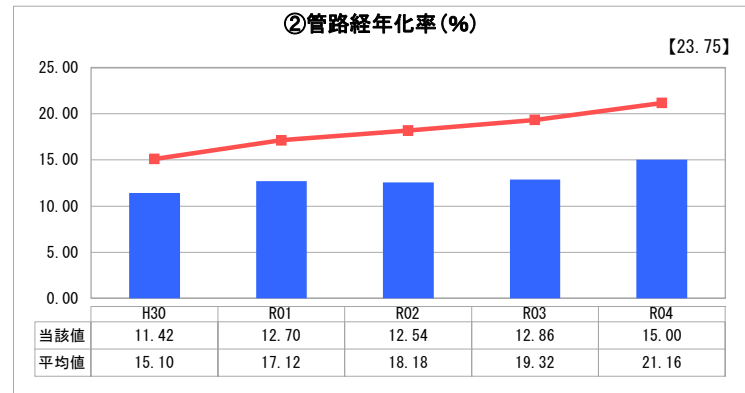
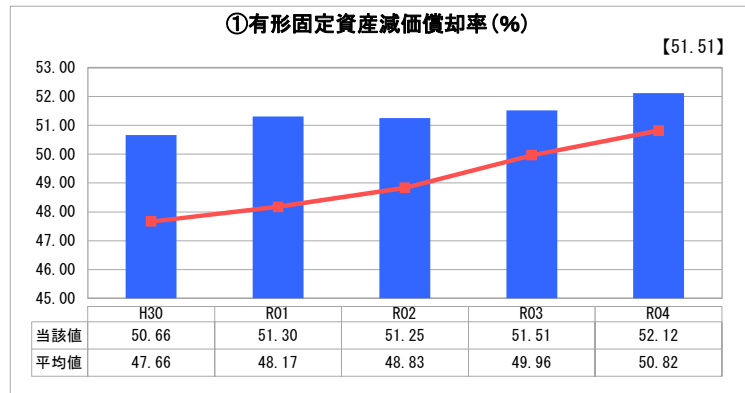
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
41,283	107.01	385.79
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
41,027	47.06	871.80

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率：単年度収支は黒字となり、給水にかかる費用が給水収益で賄われている。
 ②流動比率：昨年比微減であるものの、400%を超えていることから、短期債務の支払に心配はないと考えられる。しかしながら、今後予定される水道施設の更新に係る建設改良費の増加による流動資産の大幅な減少が懸念されるため、営業収益とともに、流動負債が増加する建設改良企業債の借入等に配慮していく必要がある。
 ④企業債残高対給水収益比率及び⑤料金回収率については、物価高騰対策に係る措置として、水道料金基本料金を一定期間減免したことによる給水収益の減少に起因しているが、一般会計から繰り入れられた補助金を考慮すると、企業債残高対給水収益率は改善し、料金回収率は昨年比低下したが、100%は超えている。しかしながら、今後増加が予測される更新費用を見据え、新規借入れを行いつつ計画的な財源確保に取り組む。
 ⑥給水原価：他団体と比べて低い数値となっているが、近年の電気料金の変動や人件費など給水にかかる費用の増加により前年比微増した。
 ⑦施設利用率：安定的な既存施設の能力規模を維持していると考えられ、今後も効率的な利用に努める。
 ⑧有収率：有収率は類似団体平均を上回っている。今後も漏水調査や修繕工事を行い、引き続き配水量が収益に結び付くよう努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産償却率：50%を超えており、前年度数値と比較しても償却が進んでいる。資産別では水道施設に係る各種設備の減価償却率が高い。
 ②管路経年化率：平均値より数値は低いものの、前年に比べ経年化率が上昇している。
 ③管路更新率：数値は平均値以上であり、1%は超えているものの、管路経年化率の前年比増を踏まえ、今後も管路更新事業を推進していくことは重要と考える。

全体総括

単年度の収支が黒字を示す経常収支比率は100%以上が続いており、短期的な債務に対する支払能力も有していると考えられる。
 また、比較的安価な給水原価で既存施設の能力を効率的に利用し、給水収益につながるよう効率性も発揮され、累積欠損金もないことから、経営に関しては概ね良好な状況と考えられる。
 しかしながら、有形固定資産減価償却率から、今後水道施設(建物等)や設備の更新費用を確保していくことは直近の課題であり、将来的に給水収益の増収も厳しいと予測される中、中長期的な事業計画と財政計画のもと、水道施設等の維持管理及び施設の更新を継続できるよう健全な水道事業経営に努める。